

東京都立町田の丘学園校長
三浦 昭広
第3号 令和7年2月26日発行



町田の丘学園のセンター的機能

町田の丘学園は肢体不自由のある児童・生徒、知的障害のある児童・生徒の通う特別支援学校です。校内には障害から起こる不便さを無くすための様々な設備が整えられ（見学に来てくださった方にはエレベーター・スロープ・自立活動室・もうすぐ完成する実習棟などを紹介しています）、沢山の便利な用具（ウォーカー・座位保持椅子・予定を知らせるカードシステムなど）が用意されています。小学部・中学部・高等部（普通科）があり、学習上又は生活上の困難を改善・克服するために日々学んでいます。

町田の丘学園の役割は、町田の丘学園に通っている児童・生徒たちの教育だけではありません。センター的機能といって、町田市全域をエリアとし、特別支援教育に関する連携を中心となって担う役割を負っています。町田の丘学園に通う児童・生徒たちの人生において、学校は時間的にも場所的にも、ほんの一部でしかありません。児童・生徒たちの周囲には、大きな世界が広がっています。町田の丘学園は児童・生徒たちにとっては障害を克服し主体的に生きる方法を自ら身に着ける場です。一方、外部向けには特別支援の考え方や支援の方法・有効性を広くお知らせする役割も担っているのです。

学校を卒業してしまうと活動の場が減ってしまう、障害があっても使いやすい施設が少ない、などの声が良く寄せられます。学校の環境だけ整備しても、差が大きくなるばかりです。本校の児童・生徒たちにとって、社会全体が障害があっても生活しやすい形に変わっていき、障害による不便を軽減してくれる用具や配慮が、どこでも手に入りやすい地域を目指していく必要があります。具体的にどんな風になってほしいのか、どんな支援があったらいいのか、気が付いたことはメモしておいてください。そして、PTAなどを通じてそのアイデアをお寄せください。そうした小さな一つ一つのアイデアが、共生社会を形作っていきます。

★2024年度のセンター的機能の取り組み★

今年度は、本校の学校経営計画の重点目標に則り、以下の5点に力を入れて取り組みました。

① <就学前機関(幼・保)との連携強化、指導助言>

相談を受けた幼稚園や保育園へ赴き、特別支援に関する助言等を行う巡回相談を11回ほど行いました。最近では発達障害についての理解が進み、2歳前のお子さんについての相談が寄せられることもあります。どう支援したら一人一人がより豊かに過ごせるのかを先生方と一緒に考え、実践に繋がれるように努めています。



② <町田市内小・中学校(特別支援学級・教室)との連携強化>

巡回相談や特別支援教育を中心となって進めるリーダーの先生を養成するリーダー研究会の講師などを11回行いました。場の構造化や刺激の軽減などの環境整備や、個の特性に基づいた合理的な指導法、行動問題への対応などの支援を行いました。

中学校特別支援学級の進路研修会も依頼が多い領域で、生徒・保護者向けの研修を4回行いました。現在は知的障害特別支援学校も「就業技術科」「職能開発科」「普通科」など複数の科があり、進路選択の幅が広がっています。加えてチャレンジ高校や通信制高校などの選択肢もあり、将来を見据えてどのような進路があるのか、どのような準備をすればいいのかという情報をお伝えしました。

また、町田市教育センター主催の特別支援教育コーディネーター向け研修会を3回(副籍制度について・引継ぎについてなど)、特別支援学級(知的固定)担当教員の研修会を3回、特別支援学級(肢体不自由)担当教員の研修会を2回、サポートルーム(特別支援教室)担当教員の研修会を3回行いました。特別支援教育担当の教員は年々増加していて、研修会によっては100人を超えることもあります。町田市教育センターの一番大きな研修室にも入りきれなくなっていて、オンラインやオンデマンドの研修が半分以上を占めるようになってきました。



ICT機器を使った研修会は、受講している先生方の反応がわからないもどかしさもありますが、移動時間や場所の制約を少なくして、沢山の先生に聞いてもらえるメリットがあり、有効だと感じています。

さらに、夏季休業中には小学校の体育館を借りて特別支援学級・サポートルームの130名を超える先生方を集めてワークショップ形式の研修会を行いました。本校の外部専門員(教員向けアドバイザー)の協力も得て、「行動問題の理解と解決のための、アイデア創造ワークショップ(カードゲームを通して行動問題の「機能」を学ぶ)」をテーマに、カードゲームをしながら行動問題の対応を実践的に身に着ける実践的な研修会になりました。

③ <高等学校における発達障害教育支援のための訪問等>

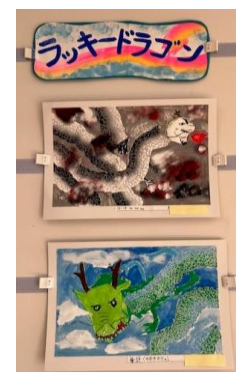
義務教育が終わり進路に幅の出る高等学校は、今まで受けてきた特別支援教育や合理的配慮が途切れがちな時期です。自己判断で行動する範囲が大きくなることから、今まで目立たなかった困難が顕在化してくる生徒もいます。東京都では高等学校の特別支援教育（合理的配慮）を支援するために「都立版エリアネットワーク」という体制を作り、学区域を同じくする特別支援学校が各高等学校の先生方を支援するシステムを作っています。町田市には都立高校が多く、今年度は5校に対し、訪問やメール・電話での相談支援を行いました。

発達障害に関する支援が主ですので、心理面での支援や感覚過敏や学習障害に対する支援グッズなどの本校の支援ノウハウが役に立ちます。相談内容に応じて、幅広い情報提供をしています。



④ <町田市立学校及び野津田高校との交流推進>

今年度は七国山小学校、木曽中学校との作品交流を行いました。11月には本校の「まちだ祭」で七国山小学校と木曽中学校から児童・生徒の作品をお借りして展示しました。



木曽中学校とは作品交流だけでなく、ボランティア部と本校中学部の生徒との直接交流も計画しており、2月末頃に実施予定です。

校舎が隣接している野津田高校とは交流が盛んです。互いの学校に直接行き来できる通用門も作られ、本校のグランド工事中の期間中は、野津田高校のグラウンドをお借りして体育を行っています。また、肢体不自由教育部門はポッチャ交流、知的障害教育部門では野津田高校文化祭での喫茶班マドレーヌ販売などで交流をしました。来年度は更にいろいろな交流ができるように計画中です。

作品交流については、副籍交流の中でも盛んに行なわれています。本校は野津田の山の上であり自然豊かなのですが、交通の便が悪いという難点もあり、学校間では交流の難しい学校もあります。そのため、地域での交流である副籍交流も積極的に進めています。

⑤ <特別支援教育に関するセンター的機能の発揮>

上記したようなセンター的機能を担うため、特別支援学校では「特別支援教育コーディネーター」が指名されています。本校では専任1名、兼任3名が担当しています。

平成19年度（2007年度）に特別支援教育がスタートして、17年になります。放課後等デイサービス、ショートステイ、発達支援センター、計画相談など、今では皆さんが当たり前に使っている制度や事業所も、スタート当時はほとんどありませんでした。今ではその数も増え、数の上では十分整備されてきているように見えます。しかし、実際に使ってみると課題も見えてきます。放課後等デイサービスやショートステイ事業所とは年に数回、本校で連絡会を開催して送迎方法や引継ぎ事項について詳しくお伝えしています。ケースによって密な連携が必要な際には、支援会議をお願いすることもあります。このように関係機関と連携しながら、少しでも子供たちや保護者の方々が支援機関を利用しやすくなるように、調整を進めていくのもセンター的機能の大切な役割です。



<お問合せ>

東京都立町田の丘学園

○本校舎：〒195-0063 町田市野津田町2003
TEL) 042-737-0570 FAX) 042-737-0580

特別支援教育コーディネーター

<専任>

旭岡 善介（ひのおか ぜんすけ）

<兼任>

大澤 紘子（おおさわ ひろこ）

富田 智美（とみた ともみ）

佐藤 渉（さとう わたる）

その他、進路コーディネーター、自立活動部、外部専門員などと連携して様々なニーズに応じます。

